2026_1023「終演後のコンサートホール」日々の理科 4457 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

月に一度、東京都交響楽団の定期演奏会を聴くために、サントリーホールへ出かけます。毎回、同じ指定席に座り、オーケストラの演奏を楽しんでいます。サントリーホールの大きな特徴は、ステージを取り囲むように客席が配置され、ステージの後方にも客席があることです。私の指定席は、まさにそのステージ後方にあります。一般的には音響面で不利な席ですが、料金が比較的安いことに加え、指揮者の表情や身振り、演奏者への細かな指示までよく見えるという、ほかの席にはない魅力があります。

演奏中、指揮者は客席に背を向けていますから、通常の客席からはその表情を見ることができません。しかし、私の席からは指揮者と向き合うようにして演奏を楽しめます。指揮者がどのような表情で音楽をつくり、演奏者たちがそれにどう応えているのか。音楽を耳だけでなく、目でも味わうことができるのです。時には、指揮者の動きに合わせてオーケストラ全体が呼吸しているように感じられることもあります。

私は演奏会が終わっても、すぐには席を立ちません。拍手が鳴りやみ、観客が次々と退場し、先ほどまで壮大な音楽が響いていたホールが、少しずつ静けさを取り戻していきます。ステージでは演奏者たちが楽器を片づけ、譜面台や椅子だけが残されます。この終演後の、何ともいえない余韻に包まれた雰囲気が好きなのです。終演後は写真撮影も許可されているので、時折こうして記録に残します。音楽そのものは消えてしまっても、その感動だけは、静かなホールの空間にいつまでも漂っているように感じられます。

（2026 年 10 月下旬／サントリーホール）

